

2009年9月25日

ロシア関連メモ 016

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野

ロシア:年金システム改革及び安定化プラン

1. 年金改革の位置づけ

ロシアにおいて「年金システム改革」は最も優先順位の高い政策課題の一つである。これはソビエト連邦崩壊後大きく目減りした年金額が、その後の数次の改革にもかかわらず依然低水準のまま、「最低生活賃金」に達していないためである。

今年6月に行われたメドベージェフ大統領の予算教書演説においても、2010年から2012年の予算編成方針の重点課題の1つに「年金システム改革」が掲げられており、高齢者に適正な生活水準を保障するための、信頼性がありバランスの取れた年金システムを確立すること及び2010年に平均年金額を月額8,000ルーブル（現状月4,000ルーブル程度）とし、最低額を上げるとの方針が示された。

2. 年金改革の動き

(1) 09年の年金増額

このような方針に従い、2009年12月1日から総ての労働年金（老齢年金、障害年金、寡婦年金）の平均30%総額が実施される（2009年9月11日Valdaiクラブ¹におけるプーチン大統領のコメントでは、実際は36%増額）。

(2) 年金改革法

また、2009年7月24日、メドベージェフ大統領は年金システム改革の枠組みを定める2つの法律案に署名した。その主な内容は以下のとおり。

- ・ 2010年末までに平均年金額（月額）を7,781ルーブルに増額。
- ・ 2010年1月に古い世代の退職年金を増額。年齢に応じて年金額は950ルーブルから1,700ルーブル増加する。
- ・ 生活費がロシアの平均より高い地域については補助金を付与。補助金額は受給者の月額年金額、一時金額、毎月の現物支給等を勘案して決定される。

¹ ロシアのシンクタンク外交防衛政策評議会（カラガーノフ議長）とRIAノーボスチ通信者の共催で2004年から毎年開催されているロシア政府首脳と各国のロシア専門家との懇談会。2009年は9月11日と15日にYakutiaにおいて開催され、プーチン首相、メドベージェフ大統領がそれぞれ出席した。

- ・ 統一社会税方式から保険料方式への変更を検討する。

(3) 年金安定化プラン(называемую валоризацию)

プーチン首相は Valdai クラブにおいて、2010 年 12 月 1 日から開始される年金安定化(называемую валоризацию)の実施計画についてコメントした。

このプランは 2015 年まで 5 年間の移行期間を経て進められる、その柱となるのは旧ソビエト時代に勤労期間を有する年金受給者の年金額を再計算するというものである。旧ソビエト時代の勤労期間に対応する年金額を 10%程度増額されることになり、またさらに勤労期間 1 年ごとに 1%相当の割り増しを行う。

旧ソビエト時代に勤労期間を持つ年齢層は、今日財政的に最も苦境に立たされており、旧ソビエト崩壊によってそれらの年齢層の人々の年金額は当時の掛け金の価値を反映したものとになっていない。そのため年金額を見直して部分的ではあるものの「社会正義を実現する」ことを目的とする。

その他、統一社会税方式から保険料方式への変更と、需給開始年齢の繰り下げ制度の導入等が行われる見込み。ロシアの老齢年金の需給開始年齢は女性 55 歳、男性 60 歳であるが、2015 年以降、年金加入期間 30 年以上で、需給開始年齢到達以降も働く人の年金額を 1 年あたり 6%引き上げる。これによって希望者にはリタイアする時期を遅らせることができるようにする。

以上